

コガムシ

Hydrochara affinis (Sharp)

コウチュウ目ガムシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

かつては県内各地に生息していたと思われるが、近年確認されている生息地は離島の1箇所のみであり、本土部ではまったく確認されていない。

形態

体長16~18mm。体型は紡錘型。体は全体に黒色であるが、脚は赤褐色。脚は遊泳にはあまり適していない。幼虫はいも虫状で顎は左右非対称。同属のエゾコガムシは、脚が黒色であることから区別される。

国内分布

北海道、本州、四国、九州に分布する。

県内分布

輪島市舳倉島では2004年に確認されている。1964年の白山市（旧鶴来町）の記録があるが、環境破壊により現在は生息していない。

生態

6月頃に水草の間に白いまゆ状のゆりかごをつくり、その中に産卵する。幼虫は肉食性で他の水生昆虫や巻貝などを捕食するが、成虫は主に草食性である。幼虫は3齢になり老熟すると岸辺に上陸し土中で蛹化する。灯火に飛来する。

生息地の条件

一般的には、平野部~丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息するといわれているが、輪島市の生息地は、離島の植物の少ない小さな池である。

生存の危機

離島の小さな池にのみ生息するため、生息基盤が脆弱であり、湿地の攪乱、水質汚染が脅威である。富山県では、1990年代に射水市の海岸沿いの池で生息が確認されたことから、本県の本土部においても再発見が期待される。(A, B)

特記事項

舳倉島の生息する池は特別保護地区に指定されている。

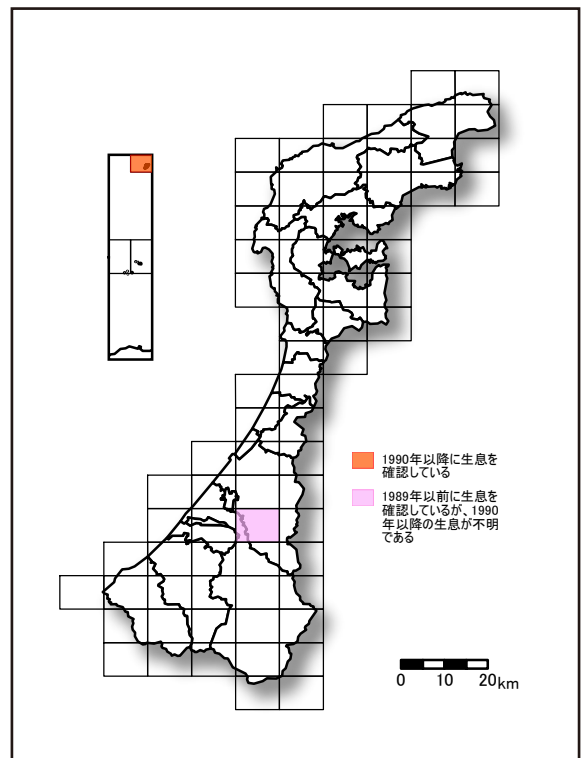
参考文献

細井 操 1947. コガムシの生活史. 採集と飼育, 9 : 201-204.

林 成多 2007. 島根県産水生甲虫類の分布と生態. ホシザキグリーン財団研究報告, (10) : 77-113.



標本提供者: 高羽正治



県内の分布